GN21地球村再生シリーズ　　主催：グローバル・ネットワーク21（GN21）

第4回 『混迷のなかの「安定」 ―モロッコ王国における宗教・政治・女性― 』

2022年に始まったロシアのウクライナ侵攻に加え、70年以上解決の糸口が見えないパレスチナのガザで大規模な戦闘が2023年10月に始まった。戦争の世紀とされた20世紀が終わって四半世紀が過ぎようとしているにもかかわらず、世界各地、とりわけ中東北アフリカ（MENA）地域では一連の政変（「アラブの春」）に端を発した内戦やISの台頭、難民の発生、そしてイスラエル・パレスチナ問題など不安定な情勢が続いている。

講演では宗教や民族など他のMENA諸国と多くの共通点を持ちながら、**比較的「安定」を保っているモロッコ王国の統治や情勢**を紹介しつつ、同地域の今後について考えたい。

モロッコは8世紀初頭にイスラーム化し、 8世紀末にイドリース朝が成立して以来、幾多の王朝が興亡したが、現在に至るまで王制を維持している数少ない中東・北アフリカ地域の国である。**国王は政治の長であると同時に宗教的な長であることが同国の王制の一つの特徴**であり、安定化にも寄与していると考えられる。とりわけ2014年のIS（過激派組織イスラミック・ステート）台頭以降、**過激派対策**が中東・北アフリカ諸国のみならず欧米やアジア諸国でも重視されたが、モロッコは宗教的な長である国王主導で対策を講じた。また、社会における女性の地位向上についても国王が主導し、2004年に**家族法を改正**するなど、政治と宗教両面を管理する王制がモロッコ社会の安定に果たす役割は大きい。

講師:中川　恵（なかがわ　けい）

羽衣国際大学 学長

武蔵野大学国際総合研究所客員教授、 ムハンマド五世大学特別客員教授、東京大学学術博士。日本学術振興会特別研究員（PD）、在チュニジア日本国大使館専門調査員、明治大学国際総合研究所客員教授等を経て、現職。専門は中東北アフリカ地域研究。特に北アフリカの近現代政治史・現代政治を専門とする。2011年11月、2016年10月のモロッコ王国議会選挙では、国際選挙監視員を務めた。

日時

2025年7月19日(土)　13:00～15:00

※終了後、ご自由に立命館大学国際平和ミュージアムをご見学いただけます。

会場

立命館大学 衣笠キャンパス
平井嘉一郎記念図書館　カンファレンスルーム

※市バス立命館大学前下車　正門を入って徒歩3分、図書館入ってすぐ左です。

参加費: 無料（ただし資料代500円※除学生）　**申込：不要**
問合先：080-9079-7195（事務局:桂良太郎）
WEB：GN21ネット（https://www.gn21.net）